

3学期始業に向けて「ピンチはチャンス」を学ぶ

2024・1・9 校長 重枝一郎

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

さて、この「校長講話」は、あとで生徒のみなさんに振り返ってもらえるように、また、保護者の方々や都合で欠席の生徒にも何を話したか、伝わるように、このようなお便りにしています。試験も評価もない「校長講話」を生徒のみなさんは、考えながら読んでくれているだろうかといつも思っています。

今回は、『「ピンチはチャンス」を学ぶ』の話をしようと思います。この「ピンチはチャンス」という言葉から、私が考える学びは3つあります。

1つ目の学びは、「失敗したときにつかんだものを大事にせよ」です。

みなさんも失敗することはあるでしょう。その失敗したときというのは、“ピンチ”と言えます。ただ、失敗したときのショックはあったとしても、何かをつかんで、大事にしてほしいのです。例えば、試験ができなくて、「もう少し勉強しておけばよかったな」と思ったら、「もう少し勉強しておこう」という気持ちを大事にしてください。遅刻が多くて、「もう少しがんばって早く家を出ておけばよかったな」と思ったら、そのとき思った「早く家を出よう」という気持ちを大事にしてください。

2つ目の学びは、「大事にしているものを人のために与えているか」です。

大事なものを誰かに与えることって、何か損をしている気になるかもしれません。それもある意味“ピンチ”と言えるかもしれません。ところが、何かを与えたら、見返りがあるとかないとかでなく、それは、新たな出会いを生むことになる“チャンス”になっているのです。みなさんは、毎日少しずつ勉強しています。それによって得るものがあります。それを誰かに提供すると、その提供できるものを、より価値のあるものにしようとまた勉強します。そうした繰り返して、人は成長するし、より素晴らしい人や物と出会います。

3つ目の学びは、「出会いを大事にする」です。

2つ目の学びの続きになりますが、様々なものや人と出会ったとき、素っ気ない態度や欲張りな態度をとらず、出会いを大切にすることです。どの出会いも軽く扱わず、誠実に対応することです。特に“ピンチ”のとき、いつもと違う状況のことが多いので、いつもとは違う出会いがあります。そのことに気づいてほしいし、その出会いを大事にしてほしい。うまくいかない暗いトンネルが永遠に続くことは絶対にありません。そのときに一緒に過ごした仲間を多く得ることができます。

みなさんのように若いうちは、何度も“ピンチ”があります。つまり、その分“チャンス”があるのです。出会いもたくさんあるのです。この話を聞いて、もし、「“ピンチ”でつかんだものを大事にしていないなあ」と思った人に伝えたい。「今回は、大事にできなかったけど、次回は、大事にできる人間になろう」と考えてほしい。若いうちは何度もその“チャンス”もあるからです。

毎日の授業の中で、理解できたり、できなかったり、一人一人の課題は様々だと思います。先に書いたように、「失敗したときにつかんだものを大事にせよ」ができているかをみなさんにはこだわってほしいと思っています。そしてこのことを「生産的失敗」という言い方をします。だから「次は、もっといい失敗をしよう」というマインドで生活してほしい。

学校としても、黙々と机に向かう学び方と、必要に応じて人の力を借りたり、人に力を貸したりする相互触発による学び方をこれからも丁寧に積み重ねていきたいと思っています。

君たちの3学期は明るい！